GSM Newsletter

vol.5 / 2023.1

GSM Topics

パラドキシカル・リーダーシップ産学共同講座
京都大学経営管理大学院 SDGs リーダーシップアワード
在校生の声（博士後期課程）
新寄附講義のご紹介・新任教員のご紹介
イベントレポート・後期授業レポート
同窓会会長の挨拶

京都大学経営管理大学院
Graduate School of Management, Kyoto University

産学共同講座のお知らせ

2022 年度、経営管理大学院に新たな産学共同講座が
開設しましたのでご紹介いたします。

パラドキシカル・リーダーシップ産学共同講座

2022 年 11 月 16 日～ 2024 年 11 月 15 日

alue　寄附者　**アルー株式会社**

経営リーダーは、矛盾する要素を内包する課題、言い換えると「パラドキシカルな課題」を常に抱えています。「品質を高めながら、いかにコストを抑えるか」といった古くからの課題もありますが、「持続可能な社会に対する要求の高まり」「VUCA とも称される変化の激しい事業環境」「組織と個人の関係性の変化（囲い込みから相互選択へ）」といった昨今の社会情勢の変化は、下記のような多くの「パラドキシカルな課題」を経営リーダーに突きつけています。

・短期的な経済的利益と、長期的な環境への配慮を、いかに両方実現するか
・既存事業を維持・発展させながら、いかに新規事業に積極的にチャレンジするか
・組織の戦略実行能力を高めながら、いかに個人の自律的キャリア形成も実現するか

こうした課題に対して、従来の経営論やリーダーシップ論では、「二者択一」、つまり「either/or」の姿勢で臨むことが重要視されていました。明確な優先順位をつけ、果断な意思決定をくだすのがよいリーダーであるという考え方です。もちろんこの考え方が有効な場面や課題は多く存在します。

ただし、先ほど挙げたような昨今の社会情勢が突きつけるパラドキシカルな課題には、そのアプローチは有効ではありません。「二者択一」（either/or）ではなく、パラドキシカルな要素をいかに共存させ、「両立」（both/and）させていくかという問いを持って課題と向き合っていくことが重要です。

しかしながら、「両立」の実現には困難が伴います。時に組織に混乱を生じさせることも少なくありません。一方で、その困難にリーダーが上手に対処することができれば、「パラドキシカルな課題」に取り組む事は、新たなイノベーションを生み出す契機にもなります。

本講座の目的は、これからの社会に求められる、パラドキシカルな課題と向き合い、それをマネジメントする経営のあり方を明らかにし、その経営を担うリーダーを育成することです。京都大学経営管理大学院の経営学の知見と、アルー株式会社の組織・人材開発の実践を通した知見を合わせ、経営リーダーの育成と研究成果の発信を行ってまいります。

パラドキシカル・リーダーシップ産学共同講座（京都大学経営管理大学院）
https://www.gsm.kyoto-u.ac.jp/collaborative-research/alue/
京都大学産官学連携本部
https://www.saci.kyoto-u.ac.jp/
高等教育機関における共同講座創造支援事業（経済産業省）
https://www.meti.go.jp/policy/innovation_corp/koutou_kyouiku_kikan_niokeru_kyoudoukouzasousyutu.html
※本講座は高等教育機関における共同講座創造支援事業（経済産業省）に採択されております。

関口 倫紀 教授

【専門分野】
人的資源管理論・組織行動論

経営学が蓄積してきた膨大な学術的知識はいわゆる一般論にすぎませんが、それらを網羅的かつ体系的に会得し、状況に応じて適切に組み合わせることによって、個別の企業に固有の経営上の問題に対する適切な答えが導き出せると考えられます。

竹内 規彦 客員教授

【専門分野】
組織行動・人的資源管理・職業心理学

キャリア、モチベーション、リーダーシップなどの理論的・実証的研究を行っています。一見すると人の行動はランダムに見え、個人の経験則や第 6 感に頼りがちなのが人のマネジメントです。組織行動の科学的な知見をもとに最適解を探る機会を提供できればと考えています。

落合 文四郎 特命教授

【専門分野】
人的資源管理論・組織行動論

物理→BCG→起業→上場というプロセスを経験してきた私にとって、経営とは矛盾の両立です。変化が激しく、複数の目的を同時追求することを求められる昨今の経営環境において求められている「矛盾を両立するリーダーシップ」について、探究・実践・協働していきます。

中村 俊介 客員准教授

【専門分野】
組織・人材開発

パラドキシカルリーダーシップは、東洋思想との関係が深いことがいくつかの論文でも指摘されています。そういった意味で、歴史的に日本文化の中心である京都に位置し、日本を代表する研究・教育機関である京都大学と共にこの分野の研究を進められることに大きな意味を感じています。パラドキシカルリーダーの育成と、意義のある研究成果の発信に全力を尽くしてまいります。

今村 都 特定助教

【専門分野】
国際人的資源管理・国際経営
タイ地域研究

タイや日本を含むアジアの労働文化は既存の経営学理論では解き明かせない部分もまだまだあります。受講者の皆様と議論を重ねながらこれからの理論を作り、伝統文化と資本主義社会のあるべき関係を考えていきたいです。

京都大学経営管理大学院 SDGs リーダーシップアワード

京都大学経営管理大学院 SDGs リーダーシップアワードは、本大学院の大学院生および卒業生が推進する SDGs に関連した実践活動および研究活動を発掘し、それらの活動を促進することを目的としています。本年度より設立されました。

https://www.project.gsm.kyoto-u.ac.jp/accd/sdgsaward2022/

2022.9.22 SDGs リーダーシップアワード 2022 表彰式を開催しました

9 月 22 日（木）に京都大学経営管理大学院 SDGs リーダーシップアワード 2022 表彰式をオンラインで開催しました。アワードの設置初年度となる今年度は、「SDGs プロジェクト部門」に 13 件、「SDGs 研究部門」に 3 件の合計 16 件の応募が集まりました。厳正なる審査の結果、下記の通り、「SDGs プロジェクト部門」で最優秀賞 1 件、グローバル社会起業寄附講座賞 2 件、「SDGs 研究部門」で最優秀賞 1 件、みずほ証券寄附講座賞 1 件の表彰が決定しました。

オンライン開催の表彰式の様子
右上：蓮行 特定准教授

表彰式では、蓮行 特定准教授の司会進行のもと、表彰者が発表され、各表彰者がショートコメントを述べました。最後に、審査委員の村井暁子 客員准教授から総評が述べられ、和やかな雰囲気のなか閉会しました。

本アワードは来年度も引き続き開催予定です。経営管理大学院の在学生・卒業生が推進する SDGs に関連した実践活動および研究活動を発掘・促進することで、社会還元に寄与したいと考えています。

SDGs プロジェクト部門

【最優秀賞】
「次世代養蚕」による SDGs 貢献活動
プロジェクトギガモスラ
沢井 拓 氏、福島 知子 氏、
芹澤 洋平 氏、矢花 卓夫 氏

代表 沢井 拓 氏

【グローバル社会起業寄附講座賞】
元気な子を元気なまま未来へ！
子どもの良質な「くう」・「ねる」・「あそぶ」を楽しく整える！
こどもの健康リテラシーをサポートするゲームアプリの開発とビジネス展開
チーム・リエゾン　佐藤 郁子 氏、松下 理恵 氏

佐藤 郁子 氏

松下 理恵 氏

【グローバル社会起業寄附講座賞】
CORE-Peru Project: Empowering communities through the development of rural roads

Lissette Estefania Sangama Ramirez 氏

SDGs 研究部門

【最優秀賞】
ESG と資本コストに関する研究ー企業のマテリアリティのテキストマイニングを手がかりとしてー

志賀 紘希 氏

江口 瞭 氏

【みずほ証券寄附講座賞】
ステークホルダーの重要性と企業価値との関係性についてのー考察（ESG 経営 /SDGs 経営を推進し、後退可能性を低減するために）

岡田 一郎 氏

【担当教員】
澤邉 紀生、砂川 伸幸、柴崎 健、村井暁子、
蓮行、末長英里子

【協賛】
みずほ証券寄附講座、グローバル社会起業寄附講座、
シスメックス寄附講座、SHIFT 寄附講座

在校生の声

門澤 慎 さん

博士後期課程（経営科学専攻）
実践ファイナンス領域
2021 年 4 月入学

私は実務家として、資本政策・M&A 領域でのアドバイザリー業務を行っています。資本政策・M&A 領域の業務は、ファイナンスを中心とした理論を用いて業務を行うことが多いのですが、一方で日々、現場で業務を行う中で、慣行・慣習として使われているものの、理論的には説明できない、またはされていないと思われる考え方も存在します。私はこのような理論と実務のギャップに関心を持ち、そして可能な限りそのギャップを言語化・一般化したいという思いが強くなったため、本経営管理大学院博士後期課程の門を叩きました。現在は在学 2 年目の学生です。

研究活動は、やはり大変です。とくに、アカデミックの世界における論理的思考力や分析力の修得には苦労しています。しかし本経営大学院博士後期課程では、1 年目に基礎科目の授業があり、研究の考え方や進め方をしっかりと（そして時には厳しく）指導していただけます。もちろん授業を受けたからと言ってすぐに修得できるものではありませんが、実務家としての自分がアカデミックの世界でものを考えるときに何が足りないのか、という点はクリアになりました。2 年目からは本格的に博士論文執筆のための研究を進めることになります。博士論文の中間審査通過には、最低 1 件以上の学会への査読付き論文の投稿が必要となります。そのためまずはこの準備を進め、この 9 月に日本価値創造 ERM 学会で 1 回目の学会発表を終えることができました。今後は学会で指摘されたことも踏まえつつ、より広範なデータを集めるため、大規模アンケート調査の準備を進めています。

これら研究活動については、積極的に指導教官に相談しています。本経営管理大学院後期博士課程の教員は学会の第一人者ばかりですが、とても親身に相談にのってもらえます。他大学のことはわかりませんが、とてもすばらしいサポートを受けることができる環境だと思います。

また同期の存在もとても重要です。やはり社会人として仕事をしながらの研究は、時間的にも精神的にも非常に負担があり、気が付くと 1 か月 2 か月と研究が進んでいないということもしばしばあります。そんな時は同期のメンバーと、SNS グループや、数か月に 1 回程度、リモート飲みを開催し、お互いの状況や各人が持つ情報の共有をしています。とても優秀な方が集まっているため刺激を受けつつアドバイスも頂けるのは本当に感謝しています。

私が本経営管理大学院後期博士課程に入学して以降、周囲からはなぜ大学院に行くのか、意味があるのか、とよく聞かれます。そんな時は自分の人生の彩りを豊かにするため、と答えています。自分の博士論文が完成したらアカデミック的にも実務的にも意味があるかもしれない、といったこともあるかもしれませんが、それだけではつまりません。本経営管理大学院で博士論文にチャレンジ（何年かかるかわかりませんが）することで、人生の彩りがもっと豊かになるはずです。ぜひ本経営管理大学院へ興味がある方は、飛び込んでみてください。

新寄附講義のご紹介

ストライク寄附講義

2022 年 5 月 1 日～ 2025 年 3 月 31 日

寄附者　**株式会社ストライク**

―スタートアップ M&A―

本寄附講義では、スタートアップ企業を対象とした M&A に関する講義を提供する。講義は、スタートアップ企業の POC（Proof of Concept）までの過程とイグジット戦略、事業会社による CVC（Corporate Venture Capital）設定とスタートアップ投資の選定、投資後の新結合の経営、という 3 つのパートで構成される。理論的観点と実務的視点の双方から、講義を提供し、事業会社とスタートアップの M&A とその共創を担うマネジメント育成を目的とする。本寄附講義は、株式会社ストライクの支援によって運営される。

新任教員のご紹介

YANG, I-Chieh Michelle 特定講師

Kyoto Creative Assemblage
【専門分野】
Marketing, Consumer Culture,
Consumer Experience,
Tourism and Hospitality,
Political Consumerism

Dr Yang’s research area lies in consumer culture in Asia, politicized consumption, sociology of markets, and tourism marketing. She is currently involved in research on the politicization of consumption in Asia and hospitality in healthcare context. Dr Yang’s works have been published in top-ranked journals, such as Annals of Tourism Research, Journal of Marketing Management and Current Issues in Tourism.

山田 和郎 准教授

ファイナンス・会計プログラム
【専門分野】
コーポレートファイナンス

データが好きです。理論を理解したうえで、データから現実を丁寧に読み取る過程は、時間もかかり泥臭いものです。一般に広く言われている言説も、実際のデータを見てみると違う姿が現れることがあります。

Event reports

本大学院では 1 年間でおよそ 100 件のセミナー・講演会・報告会・研究会などのイベントを開催しています。

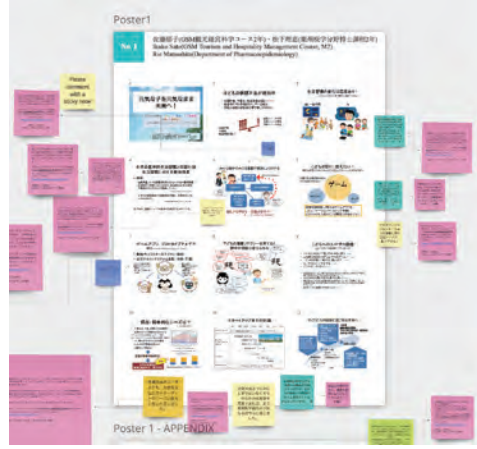
グローバル社会起業寄附講座オンラインセミナーを開催しました

3 月 26 日（土）に、グローバル社会起業寄附講座オンラインセミナー「社会レジリエンスの創出～サバイブからスライブへ～」を開催しました。
危機管理が問われる時代に、危機に強い社会を作るレジリエンス社会起業とはどのようなものかをテーマに、国や企業、私たち市民はどのような取り組みを行い、どういう方向性を目指すべきなのかについて議論することを目的に実施いたしました。
まず、参議院議員内閣総理大臣補佐官（女性活躍担当）森まさこ 氏により、「危機管理と女性活躍」と題した基調講演を行いました。続いて、スポーツコメンテーター 奥野史子 氏、株式会社 grigry 代表取締役社長 石川加奈子 氏をお迎えし、「災害に遭った子供たちへのレジリエンスを促す活動について」、「スライバーとしての起業」、「被災者の方々がビジネスをスタートするための支援制度」などに関するパネル討論討議を行いました。
当日は、学生、大学関係者のみならず、地方自治団体、産業界、危機管理に興味をもっている個人の方々等、約 90 名が参加し、「危機管理」を考える重要な機会となりました。
レジリエンス：困難や逆境から素早く回復する能力
スライバー：極端な人生経験を単に生き抜くだけでなく、その経験ゆえに成長している人
グローバル社会起業寄附講座 HP
https://www.gse.gsm.kyoto-u.ac.jp/

オンラインセミナーの様子
左上：深見真希 氏、右上：森まさこ 氏
左下：石川加奈子 氏、右下：奥野史子 氏

京大 MBA SDGs カンファレンス－SDGs リーダーシップアワード 2022 関連イベントーを開催しました

8 月 5 日（金）に、本年度より設置された「京都大学 経営管理大学院 SDGs リーダーシップアワード」の関連イベントとして「京大 MBA SDGs カンファレンス」をオンラインで開催しました。
イベントでは、京都大学経営管理大学院の学生・卒業生が推進している「SDGs に関連する実践活動・研究活動」に関する 2 件のポスター発表をオンライン上で開催し、14 名の参加者とともにディスカッションを行いました。
Miro を活用したポスター発表会場には数多くの付箋が貼られ、Zoom 上での活発な議論が交わされ、盛会のうちに終了しました。
京都大学経営管理大学院 SDGs リーダーシップアワード 2022
https://www.project.gsm.kyoto-u.ac.jp/accd/sdgsaward2022/



オンラインポスター会場の様子

「第 10 回 天草宝島起業塾高校生コース」を実施しました

7 月 22 日（土）～ 8 月 21 日（日）の間、週末の 6 日間を利用して、天草市民センターにおいて「第 10 回 天草宝島起業塾高校生コース」が開催されました。
本大学院附属経営研究センターと天草市は、2011 年（平成 23 年）に包括協定を締結して以来、天草市の地域活性化に資するために、一般市民ならびに高校生を対象とした起業塾を毎年共同開催してきました。そのうち本事業は、天草の将来を担う若者が地域の宝を発見し天草の未来を創造していくことを目的として、天草市内の高校生を対象として実施しているものです。今年の受講者は市内 5 つの高校の高校生 47 名です。
今回実施した高校生コースでは、本大学院より大庭哲治 准教授が地域課題に基づくミッション定義、価値提案、ビジネスモデル創出等についての講義を行い、高校生たちはグループワークやフィールドワークを通じて、天草の地域資源を活用したビジネスプランを考え、最終日にその成果発表を行いました。成果発表会には、天草市長、各高校の教員、そして市民の方々が参加し、各グループの高校生らしい発想に耳を傾けました。最優秀賞の表彰と修了証授与をもって 6 日間にわたる起業塾を修了しました。
また、この起業塾高校生コースで最優秀賞を受賞した天草工業高校の「家畜骨をダイヤモンドへ 宝物を作り環境を守ろう」はその後、日本政策金融公庫主催「第 10 回 想像力、無限大∞高校生ビジネスプラン・グランプリ」において全国 455 校 4,996 件の中から、ベスト 20 に選出されました。これも天草市と本大学院経営研究センターとが 10 年にわたって実施してきた「天草宝島起業塾高校生コース」の成果です。
熊本県天草市 HP「高校生が考えたビジネスプランを発表！天草宝島起業塾」
https://www.city.amakusa.kumamoto.jp/kiji0039711/index.html

起業塾高校生コース：講義の様子

成果発表会の様子

Event reports

グローバルビジネス学会 2022 年度研究発表会を開催しました

10 月 9 日（日）に京都大学経営管理大学院において「グローバルビジネス学会 2022 年度研究発表会」（本大学院共催）が開催されました。本発表会では「グローバルビジネスとレジリエンスーしなやかで強靭な社会の実現のために」をテーマに、研究発表、基調講演およびパネルディスカッションが行われました。研究発表は、ESG ／ダイバーシティ／地方創生／エネルギー／データサイエンス／ビジネス一般の 6 セッションに分かれ、研究者、実務家および本大学院の学生より 23 編の研究発表が行われました。

また、基調講演は、同学会会長／早稲田大学教授の中林美恵子 氏による「激動する国際秩序・ビジネス環境が問うレジリエンス」と、元陸上競技選手／株式会社 Deportare Partners 代表の為末大 氏による「独学の道ー領域を跨ぎながら熟達し続けるために」でした。

本研究発表会には会場に約 50 名、オンライン約 20 名、合計約 70 名の研究者・実務家・学生らが参加し、活発な議論が行われ、盛会のうちに終了しました。

グローバルビジネス学会 – 2022 年度 研究発表会 開催報告 –
https://s-gb.net/2022/10/31/2022-kenkyu-report/

ご講演中の為末大 氏

パネルディスカッションの様子
左から平林信隆 氏、小西美穂 氏、為末大 氏、中林美恵子 氏

2022 年度 KC-CDO 大和工業奨学金報告会を行いました

10 月 14 日清風荘において、KC-CDO 大和工業奨学金報告会を実施いたしました。大和工業株式会社と京都大学経営管理大学院は、2018 年 10 月 16 日に京都大学ーコーネル大学国際連携コース（KC-CDO コース）学生を対象とした奨学金を主目的とする寄附についての覚書を締結し、2019 年度より実施しております。

2022 年度の報告会に参加したのは、KC-CDO コースの奨学金授与採用者 2 名（2020 年度採用 友田奏子さん、2021 年度採用 宇都木智一さん）です。二人は米国コーネル大学での約 1 年の留学を終えて、現在経営管理大学院にて最後の学期を過ごしています。留学中の学習成果、生活体験、今学期ワークショップで取り組みたい研究内容等を同社の小林幹生 代表取締役社長をはじめとする参加者に報告しました。また、KC-CDO コース長の関口教授、担当教員の原教授とともに、今後の奨学金運用及び、教育研究などの活動について討議を行いました。

京都大学 – コーネル大学国際連携コース（KC-CDO コース）
https://www.ih.gsm.kyoto-u.ac.jp/kc-cdo/

左から大和工業株式会社 代表取締役社長 小林幹生 氏
経営管理大学院 KC-CDO コース宇都木智一さん、友田奏子さん
経営管理大学院院長 澤邊紀生 教授

Kyoto Creative Assemblage ダイアログ「佐藤可士和の創造性を読み解く」を開催しました

文部科学省 価値創造人材育成プログラム「Kyoto Creative Assemblage」は、11 月 11 日（金）にオープンイベント「ダイアログ：佐藤可士和の創造性を読み解く」を国際科学イノベーション棟シンポジウムホールで開催しました。

クリエイティブディレクターの佐藤可士和 氏（経営管理大学院 特命教授）を迎え、同氏の代表的なデザインである「ユニクロ」を題材に、本大学院 山内裕 教授との対話形式で、その創造性について議論しました。社会にイノベーションを起こすために必要なことは何か、という問いのヒントを探る貴重な議論に、200 名を超える参加者からは多様な質疑が起こり、意義深いイベントとなりました。

Kyoto Creative Assemblage
https://assemblage.kyoto
文部科学省「大学等における価値創造人材育成拠点の形成について」
https://www.mext.go.jp/a_menu/ikusei/manabinaoshi/mext_01132.html

ユニクロのデザインを語る
佐藤可士和 氏

左：佐藤可士和 氏、右：山内裕 教授
背景の Visual Identity は佐藤氏のデザインによる

Class report

後期授業「Global Social Entrepreneurship and Leadership Style」の授業を行いました

11 月 7 日（月）2・3 限に実務科目「Global Social Entrepreneurship and Leadership Style」（英語授業）の対面授業を行いました。
本科目では、組織における地位や社会における役割に関係なく、全ての人が本来持っている能力としてリーダーシップをとらえ、「持続可能な開発目標」の達成への貢献をテーマに、様々なディスカッションや演習を通じて、自分自身のリーダーシップのあり方を模索、認識し、表現していく事を主旨としており、30 名弱の多国籍の学生、留学生が履修しています。
5・6 回目のこの授業では、村井暁子 客員准教授により、社団法人イマココラボが開発したカードゲーム「2030 SDGs ゲーム」を行った後、持続可能な社会・経済の実現のための多岐にわたる議論・考察をしました。はじめに、2 人 1 組のチームが、それぞれのチーム目標を達成しながら環境・経済・社会とバランスとれた世界を実現すべく、様々なプロジェクトを限られた時間内に実施して、SDGs で掲げられている課題を達成するために、お金や時間をどう使えばいいのか、実施したプロジェクトがどう社会に影響を与えるのかを体感しました。ゲーム後は、ゲーム中の心、頭の動きや、ゲームで起こった事を現実と比較しての分析を、受講生が活発に共有、議論しあい、誰一人取り残さず、地球に負荷をかけすぎず、経済、社会を発展させていく事への考察を深めました。

授業の様子

活発に議論する受講生の様子

村井 暁子 客員准教授

グローバル社会起業寄附講座

専門分野：グローバル人材育成、リーダーシップ開発、持続可能な開発目標
一人一人が貴重でユニークな人材で、いろいろな形で社会貢献ができるという自信がつき、その自信がさらなる自己実現につながる、という相乗効果を生み出す環境、題材、刺激を提供する講座を目指しています。

同窓会会長の挨拶

吉住 このみ さん　サービス＆ホスピタリティプログラム 2021 年度 修了生

2022 年度京都大学経営管理大学院同窓会総会において、会長に選任されました吉住このみです。同窓会は設立以来、同窓会及び母校の発展に尽力してまいりました。前大森会長は、引継ぎ初期からコロナ禍により同窓会活動の大幅な制限がある中で、オンラインを中心にイベント開催や情報発信に尽力されました。体制を引き継ぎ、いただいた 2 年の任期において、私は主に次の取り組みに邁進いたします。

①同窓生と在校生の交流促進

前大森会長に引き続き、同窓生・在校生の交流を深めるためのソーシャルイベント「Get Together Party」の継続開催に加え、コロナ禍では実施が困難となっていた対面での交流の場を創出・活性化いたします。また全国・海外で活躍される同窓生との交流のため引き続きオンラインの交流イベントも開催してまいります。

②学術世界に触れる機会の提供

ビジネス環境の変化の激しい昨今において、これまで以上にビジネスとアカデミアを継続して行き来することの重要性を感じております。前大森会長が掲げていた同窓会ネットワークを活用した知見の共有に加え、経営管理大学院の先生方との連携によって、同窓生に対し卒業後も引き続きアカデミックの智に触れる機会を提供してまいります。

③GSM 国際プログラム同窓会との連携

京都大学経営管理大学院は多様な国籍の留学生が所属しており、卒業後は国内外の様々な地域において第一線で活躍しています。経営管理大学院の国際プログラム卒業生からなる International Alumni との交流・連携を強化することで、同窓会をより多様で魅力ある組織に強化してまいります。

以上、理事メンバーとともに取り組み、京都大学経営管理大学院の魅力を高めるために力を尽くしてまいります。

2022 年 11 月 23 日

同窓会では、GSM の同窓生・在校生の交流を深めるため、定期的にソーシャルイベントを開催しています。京都大学経営管理大学院同窓会オフィシャル Facebook でイベント開催等のご案内をいたしますので GSM 関係者の皆様はぜひフォローをお願いいたします。

京都大学経営管理大学院同窓会
オフィシャル Facebook
https://www.facebook.com/gsm.alumni

GSM Newsletter vol.5

〈発行〉

2023 年 1 月

京都大学経営管理大学院

〒606-8501 京都市左京区吉田本町

TEL : 075-753-3410　FAX : 075-753-3529

URL : https://www.gsm.kyoto-u.ac.jp